

ボルネオオランウータンのからだ

※ 動物に 食べものをやったり おどろかしたりしないでね！

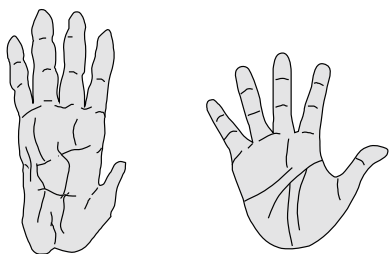
かんさつした日

20 年 月 日

天気

◆ ボルネオオランウータンをよく見て、○をつけよう！

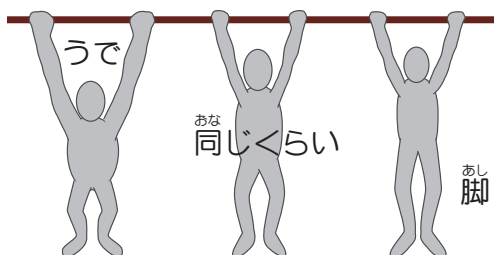
て かたち
手の形は、どっち？



め みみ かお かんせい
目と耳をかいて顔を完成させよう



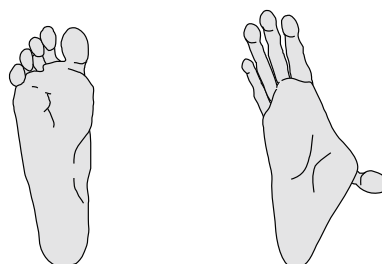
うで あし なが
うでと脚、どっちが長い？



け 毛は、なにいろ？

しろ ちやいろ くら
白 茶色 黒

あし かたち
足の形は、どっち？



しっぽは、ある？

ある ない

うらにも、あるよ！

子どもとおとな、オスとメスの特ちょうを、たしかめよう！

3つある運動場やスカイウォークのどこにだれがいるかは、^ひ白によってちがうよ！さがしてみてね！

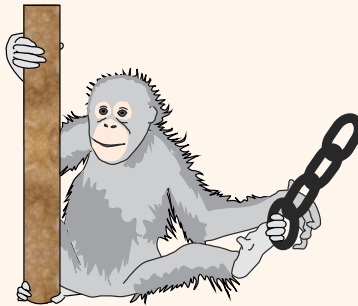
あてはまるものに、○をつけよう！

かお とく 顔の特ちょう

くち
口のまわりの色は？
うす茶色 黒っぽい色

め
目のまわりの色は？
うす茶色 黒っぽい色

こども



からだ とく 体の特ちょう

あたま
頭やうでの毛が立っている
み
見られたら○（ ）

おとなのメス

くち
口のまわりのひふの色は？
うす茶色 黒っぽい色

まぶたの色は？
うす茶色 黒っぽい色



からだ おお
体の大きさは、おとな
のオスと比べると？

ちい 小さい おお 大きい

おとなのオス

かお よこ
顔の横に、でっぱりが
ある ない

あごの下に、ひ
皮ふのたるみが
ある ない



からだ け なが
体の毛の長さは？

みじか 短い なが 長い

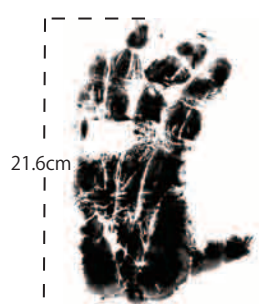
ボルネオオランウータンのからだ <解説>

ボルネオオランウータン (霊長目ヒト科)

サルの中でもヒトに近い“類人猿”の1種です。類人猿の中ではゴリラのつぎに体が大きく、メスの体重は 30 ～ 50kg、オスは 60 ～ 90kg になります。一生のほとんどの時間を木の上ですごします。

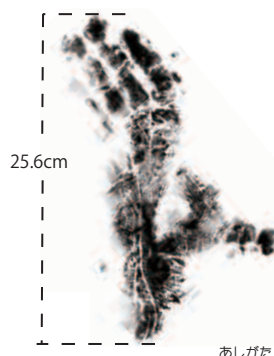
木の上でくらす体

手 (前足)



おとなのメスの手形

親指がほかの4本の指とはなれていて、私たちと同じように物をにぎることができます。細い枝をつかんだり、すばやく移動したりするときは、下の写真のように親指は使いません。



おとなのメスの足形

足 (後ろ足)

手と同じように親指がほかの指とはなれているので、物をにぎることができます。

うでと脚

脚もうでと同じくらい、いろいろな方向にのびすことができます。木の上を移動するときは、先にうでを出すので、うでが長い方がより長い距離を移動できます。

け毛

茶色のかたい毛は、木の枝や葉から皮ふを守るのに役立ちます。

しっぽ

ありません。しっぽがない理由はよくわかりませんが、オランウータンに限らず、類人猿（ゴリラ・チンパンジー・テナガザル）には、しっぽがありません。

みみ

ヒトと似た形ですが、顔の大きさのわりに小さめです。



め

顔の正面

にあり、両目で物を立体的に見ることができます。木の上を移動するときに枝と枝の距離がわかりやすく便利です。色はヒトと同じように見分けられると言われています。



子どもと、おとなのメスとオスのちがいがわかったかな？

オランウータンは、成長するにしたがって顔の色や毛の生えている様子が変わります。また、おとなのオスはメスより体が大きくなるほかに、個体によっては顔の形や体の毛の長さが変わることがあります。

子ども



生まれたときから**目や口のまわりの皮ふがうす茶色**です。成長するにしたがって皮ふの色がだんだん濃くなり、うす茶色の部分が少なくなります。

頭やうでの毛は直立して生えており、毛の量は少なめです。7才前後から毛がねてきて、量も増えてきます。

メスは15才までにはおとなになり、**顔色が黒っぽ**くなります。ただし、**まぶたの色はしばらくうす茶色**のままです。まぶたも黒っぽくなり始めるのは、個体差もありますが、20才前後からです。



おとなのメス

メスの体は、オスよりも小さく、体重は半分ほどです。

おとなのオス

オスは18才までにはおとなになります。そのころからまぶたも含めて**顔全体が黒っぽい色**になります。また、おとなのオスの中には**顔の横に大きなでっぱり（フランジ）**ができるオスがいます。フランジのあるオスは、あごの下の皮ふもたるんでいます。これは「のど袋」といい、大きな声を出すのに役立ちます。

フランジのあるオスの毛は、とても長くなります。自分の体をより大きく見せることが、他のオスへのけん制や、メスへのアピールになっていると考えられています。



フランジのふしぎ

フランジは、すべてのオスにできるのではなく、強いオスに発達します。まわりのオスよりも、自分が一番強いことを自覚すると、体のホルモンが作用してフランジが発達します。逆に自覚できないと、いくら年をとってもフランジはできません。